

## 介護職員初任者研修（シラバス）

カリキュラム 合計 130時間 ※（ ）内は通信学習時間

科 目	項 目	時間数	ねらい	指導の視点	特徴（※は使用する機器・備品）
1 職務の理解	1-1 多様なサービスの理解 1-2 介護職の仕事内容や働く現場の理解	6	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修課程全体（130時間）の構成と各研修科目（10科目）相互の関連性の全体像をあらかじめイメージできるようにし、学習内容を体系的に整理して知識を効率・効果的に学習できるような素地の形成を促す。</li> <li>視聴覚教材等を工夫するなど、介護職が働く現場や仕事の内容を、できるかぎり具体的に理解させる。</li> </ul>	職務の理解の DVD を視聴後、グループディスカッションを行い理解を深める。 ※視聴覚教材 DVD（介護労働安定センター）
2 介護における尊厳の保持・自立支援	2-1 人権と尊厳を支える介護 2-2 自立に向けた介護	9 (7.5)	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な事例を複数示し、利用者及びその家族の要望にそのまま応えることと、自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアを行うことの違い、自立という概念に対する気づきを促す。</li> <li>具体的な事例を複数示し、利用者の残存機能を効果的に活用しながら自立支援や重度化の防止・遅延化に資するケアへの理解を促す。</li> <li>利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由について考えさせ、尊厳という概念に対する気づきを促す。</li> <li>虐待を受けている高齢者への対応方法についての指導を行い、高齢者虐待に対する理解を促す。</li> </ul>	事例を基に「個人の尊厳を支える」とはどのようなことかをグループディスカッション後発表し、学びを共有する。  ※通信学習は別途介護職員初任者研修通信過程用問題を配布し、自宅にて学習後提出。 提出された課題を各教科担当が添削後返却、指導を行う。
3 介護の基本	3-1 介護職の役割、専門性と多職種との連携 3-2 介護職の職業倫理 3-3 介護における安全の確保とリスクマネジメント 3-4 介護職の安全	6 (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。</li> <li>介護を必要としている人の個性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>可能な限り具体例を示す等の工夫を行い、介護職に求められる専門性に対する理解を促す。</li> <li>介護におけるリスクに気づき、緊急対応の重要性を理解するとともに、場合によってはそれに一人に対処しようとせず、サービス提供責任者や医療職と連携することが重要であると実感できるよう促す。</li> </ul>	<演習> <ul style="list-style-type: none"> <li>三角巾を使った緊急時の対応。</li> <li>手洗いの仕方（机上にて）。</li> <li>ディスポ手袋のつけ方・外し方。</li> </ul>
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	4-1 介護保険制度 4-2 医療との連携とリハビリテーション 4-3 障害者総合支援制度及びその他制度	9 (7.5)	介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・職務について、その概要のポイントを列挙できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護保険制度・障害者総合支援制度を担う一員として、介護保険制度の理念に対する理解を徹底する。</li> <li>利用者の生活を中心に考えるという視点を共有し、その生活を支援するための介護保険制度、障害者総合支援制度、その他制度のサービスの位置づけや、代表的なサービスの理解を促す。</li> </ul>	

5 介護におけるコミュニケーション技術	5-1 介護におけるコミュニケーション 5-2 介護におけるチームのコミュニケーション	6 (3)	高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由について考えさせ、相手の心身機能に合わせた配慮が必要であることへの気づきを促す。</li> <li>・チームケアにおける専門職間でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解するとともに、記録等を作成する介護職一人ひとりの理解が必要であることへの気づきを促す。</li> </ul>	失語症の利用者を想定したコミュニケーション方法をグループディスカッション後発表し、内容を共有する。
6 老化の理解	6-1 老化に伴うこころとからだの変化と日常 6-2 高齢者と健康	6 (3)	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。	高齢者に多い心身の変化、疾病の症状等について具体例を挙げ、その対応における留意点を説明し、介護において生理的側面の知識を身につけることの必要性への気づきを促す。	事例をもとに「症状の小さな変化にどのように気付くか」をテーマでグループワークを行う。その後発表。
7 認知症の理解	7-1 認知症を取り巻く状況 7-2 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 7-3 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 7-4 家族への支援	6 (3)	介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の利用者の心理・行動の実際を示す等により、認知症の利用者の心理・行動を実感できるよう工夫し、介護において認知症を理解することの必要性への気づきを促す。</li> <li>・複数の具体的なケースを示し、認知症の利用者の介護における原則についての理解を促す。</li> </ul>	事例をもとに「どのように家族とかわるか」をグループディスカッション後発表し、意見を共有する。
8 障害の理解	8-1 障害の基礎的理解 8-2 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識 8-3 家族の心理、かかわり支援の理解	3 (1.5)	障害の概念と I C F、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護において障害の概念と I C F を理解しておくことの必要性の理解を促す。</li> <li>・高齢者の介護との違いを念頭におきながら、それぞれの障害の特性と介護上の留意点に対する理解を促す。</li> </ul>	
9 こころとからだのしくみと生活支援技術	9-1 介護の基本的な考え方 9-2 介護に関するこころのしくみの基礎的理解 9-3 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	7 5 (12)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。</li> <li>・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護実践に必要なこころとからだのしくみの基礎的な知識を介護の流れを示しながら、視聴覚教材や模型を使って理解させ、具体的な身体の各部の名称や機能等が列挙できるように促す。</li> <li>・サービスの提供例の紹介等を活用し、利用者にとっての生活の充足を提供しかつ不満足を感じさせない技術が必要となることへの理解を促す。</li> <li>・例えば「食事の介護技術」は「食事という生活の</li> </ul>	<p>事例を基に障害受容のプロセスについてディスカッションを行い発表する。</p> <p>&lt;演習&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バイタルサイン測定（体温・脈拍・血圧測定）。</li> </ul> <p>※電子血圧計、電子体温計</p>

9-4 生活と家事			える介護技術や知識を習得する。	支援」と捉え、その生活を支える技術の根拠を身近に理解できるように促すばかりでなく、「利用者に満足してもらえる食事を提供したい」といった意欲を引き出す。他の生活場面でも同様とする。 ・「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることができるように、身近な素材からの気づきを促す。	事例を基に「どのように意欲を引き出すか」をテーマにディスカッションを行い発表する。 <演習> ・ベッドメイキング ※ベッド、マットレスパッド、シーツ、タオルケット、枕、枕カバー
9-5 快適な居住環境整備と介護					「事故を起こさないための環境整備」についてディスカッションを行い発表する。 ※ベッド、車椅子、福祉用具カタログ
9-6 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護					<演習> ・口腔ケア ・椅子での着脱介助 ・ベッドでの着脱介助 (麻痺を設定し一部介助) ※歯ブラシ、口腔ケア用スポンジ、ベッド、パジャマ、浴衣
9-7 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護					<演習>移動・移乗 ・仰臥位→側臥位→端座位→立位→車椅子(麻痺を設定し一部介助)。 ・車椅子に乗って外出介助 ・杖歩行介助 ※車椅子、杖、ベッド
9-8 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護					<演習> ・ベッド上での食事介助 ・トロミ付き水分の摂取体験と介助演習 ・口腔ケア(スポンジブラシ) ※ベッド、スポンジブラシ、食器
9-9 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護					<演習> ・洗髪演習(簡易ケリーパッドを作成) ・清拭演習(顔・首・手・腕・脇下) ・足浴演習(椅子に座って実施) ※簡易浴槽、タオル、足浴用バケツ、清拭用バケツ、洗面器

	9-10 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護				<演習> ・オムツ交換演習 ※オムツ一式、ポータブルトイレ
	9-11 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護				<演習> ・臥床利用者のベッドメイキング ・体位交換 ・ゴミ袋を使用しての移動演習 ※ベッド、ゴミ袋
	9-12 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護				看取り事例を基にディスカッションを行い発表する。
	9-13 介護過程の基礎的理解				
	9-14 総合生活支援技術演習				
10 振り返り	10-1 振り返り 10-2 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	4	・研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研さんする姿勢の形成、学習課題の認識を図る。	10-1 振り返り ○研修を通して学んだこと、○今後継続して学ぶべきこと ○根拠に基づく介護についての要点（利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等） 10-2 就業への備えと研修修了後における継続的な研修 ○継続的に学ぶべきこと、○研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における事例（Off-JT、OJT）を紹介	
合計		130			

※上記とは別に、筆記試験による修了評価（1時間程度）を実施すること。